

参加学生の感想

▶ 吉田 千容さん 3年生 (鹿児島県出身)

牧場には本物の生きている牛と、日々一頭一頭の牛、消費者と向き合っている酪農家さんがいました。

何気なく口にしているすべての食にたくさんの命と人の手が詰まっているのだと学びました。遠隔でしたが酪農家さんに出会い、思いに触れる中で、体験することの重要性を確信し、いつか必ず体験したいという思いも強くなりました。

▶ 山崎 亜沙子さん 4年生 (北海道出身)

「牛を出荷する時は悲しいよりも感謝だ」という酪農家さんの言葉に衝撃を受けました。生産者さんの思いや考えは、触れてみなければ本当には分からないのだと思いました。

教員として子どもたちに何を学んでもらうか、常に考えた授業でした。子どもたちと地域をつなぐ存在として、これからも学び続けたいと思います。

北海道教育大学釧路校 教育フィールド研究Ⅶ

酪農家民泊体験実習2020

概要

参加学生：6名（3年生5名、4年生1名）

実施期間：10月～2月中旬

実施方法：遠隔（オンライン）および対面
酪農家と酪農業を紹介する動画作成

協力：根室地区農協青年部連絡協議会

J A北海道中央会根釧支所

株式会社ノースプロダクション

教育地域サポート



これまでの実習の様子はこちら

酪農家民泊体験実習

検索



お問い合わせ先

☎ 0154-44-3238

〒085-8580

北海道釧路市城山1丁目15番55号

北海道教育大学釧路校（担当：准教授 宮前 耕史）

令和3年3月発行

hue 北海道教育大学釧路校

教育フィールド研究Ⅶ

いのち・食 生きるに触れる！

酪農家民泊体験実習2020 実施報告



いのち・食 生きるに触れる

コロナ禍の
地域体験

《実習の趣旨》

命の糧・食とこれを産み出す第一次産業・農山漁村の価値・重要性を子どもたちに伝えていくことは、教員の大きな役割です。北海道教育大学釧路校では、このようなことを身をもって実感し理解を深めてもらおうと、根室地区農協青年部連絡協議会・株式会社ノースプロダクション・JA北海道中央会根釧支所等の協力を得て、酪農家民泊体験実習を実施しています。

ところが令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行のため、例年通りの酪農家民泊体験実習の実施が困難となってしまいました。そのため今年度は、実施時期をずらした上で、従来実施してきた酪農家民泊体験実習に代わり、命や食・農、第一次産業や農山漁村、地域の重要性等について実感的に理解していくためのプログラムを、学生自身が考案し、実行するプロジェクト学習として取り組むこととしました。

コロナ禍の今回の取り組みを、食育を軸としてつながりを維持し、つながり続ける仕組みづくりの契機とすると同時に、“afterコロナ”におけるよりバージョンアップした酪農家民泊体験実習の礎とします。



お世話になった酪農家さんと参加学生
(成果発表会記念写真)

2020年
10月

ガイダンス・講義

オンラインも駆使しながら、大学教員やコーディネーター、受入れ酪農家さんやJA職員から話を聞き、酪農家民泊体験実習の意図やこれまでの成果、牛の生態や酪農の仕事、協同の意義等について理解を深めました。これらを踏まえ、自分たちがどのようなプロジェクトに取り組んでいくか、検討しました。

11月



遠隔講義

12月

インタビュー・動画作成

実習の趣旨を踏まえ、“酪農家さんたちが伝えたいことを学生たちに伝える動画”を作成しました。動画作成にあたり、オンラインでのインタビューや作業内容についての取材を通じ、酪農の仕事や酪農家さんたちの思い、命の糧・食や第一次産業、農山漁村の価値・重要性等といった事柄について理解を深めました。



動画作成

2021年
1月

成果発表会

完成した動画の発表会を開催しました。動画作成にあたりお世話になった酪農家さんをはじめ、対面・オンライン含めて20名の参加がありました。成果発表会では、完成した動画を学生が披露した他、意見交換や相互交流を行いました。参加した酪農家さんからは「期待していた以上の動画ができた」といったコメントをいただきました。

2月



成果発表会